

## 二次電池にまつわるあらゆるニーズに迅速に対応

株式会社セイキ 奈良県大和高田市

繰り返し充電が可能な充電電池のことを正式には「二次電池」と呼ぶが、この二次電池の中国からの輸入販売を手掛け、ラジコンカーのレース用バッテリーで国内シェアの半分以上を占めているのが『株式会社セイキ』（大和高田市）だ。

代表取締役の栗本康順<sup>やすまさ</sup>氏（66歳）が、1984年に県の経済交流会で中国視察に参加したことをきっかけに中国とのビジネスを開始。40代から中国語を習得した栗本社長は、語学力と人脈を活かして様々な商材を輸入する商社事業に着手し、92年に（株）セイキを設立した。

長男の栗本篤志<sup>あつし</sup>専務（36歳）も学生時代に中国語を専攻し、2000年から8年間、同社の中国現地法人に駐在。地方の小規模な商社が現地法人を持つ例は当時ほとんどなく、現地当局者から「中国で一番小さい外資企業だ」とよく言われたという。



同社が取り扱う製品の一例。製品設計段階から企画に関わるオーダーメイド製品も多い。

大きな転機となったのが、ある中国製ニッケル水素電池との出会い。日本製にはない高い放電能力を持つこの二次電池を歓迎したのが模型業界で、ラジコンカーの高速走行用として人気に火が付き、06年から約3年間、ラジコンレース用二次電池の国内シェアのほぼ9割をセイキのブランド「ATLANTIS」が占めるに至った。技術トレンドの変化などでシェアは低下したが、現在も50%を保っており国内トップブランドだ。

本社内には全長160メートルのレース用室内コー

ス「RC スタジアムセイキ」も併設。愛好者が全国を転戦するラジコンカーレース「F1 RCGP」の開幕戦は例年ここで行なわれる。今年の開幕戦も1月に開催され、全国から約80名が参加した。



本社に併設する「RC スタジアムセイキ」と開催レースの様子。今年のF1RCGP開幕戦の様子は、「F1RCGP Nara」のキーワードでYouTubeで検索すれば視聴可能。

10年からは産業用二次電池にも注力。メーカーとのコミュニケーションを重視し、各社から寄せられる「開発中の製品に適切な電池が見つからない」「電池のコストを抑えたい」「使っていた電池が生産中止になった」などの相談に対し、中国における長年の経験と豊富なサプライネットワークを活かして最適な二次電池を提案している。

営業が全国で集めてきたニーズは栗本専務がすぐに中国語に翻訳して中国の協力工場につなぐ。このスピーディーな対応も大きな武器だ。

大手企業からの引き合いも多く、分冊百科大手から現在刊行中のロボット組立シリーズ用のバッテリーも同社が提供している。

現在、社員10名で年商は3億円弱。「よりリーズナブルに、より安心できる二次電池を提供する」を目標に、二次電池にまつわるあらゆるニーズへの迅速な対応を今後も進め、業容を拡大していく方針だという。（吉村謙一）



株式会社セイキ

〒635-0042 奈良県大和高田市勝目57-1  
TEL: 0745-53-7027 FAX: 0745-53-7028  
URL: <http://www.e-seiki.com>